



BRIDGES TO JAPAN

ファウンダー＆マネージング・ディレクター  
ジェニファー・ジャクバウスキー 氏  
[www.bridgestojapan.com](http://www.bridgestojapan.com)



BRIDGES TO JAPAN  
Helping to Bridge Cultural Differences between Japan and the United States

リンピックのサポートにも携わり、辿り着いた答えが、「日本と米国の架け橋になること」だつた。

然と身に付けた。中でも日本の美しい文化や日本人の実直さには心を奪われ、早稲田大学にも留学した。大好きな日本のために自分ができることは何だろう。JETプログラムや長野オリンピックのサポートにも携わり、辿り着いた答えが、「日本と米国の架け橋になること」だつた。

米国人従業員のワーク・ライフ・バランスやジョブディスクリプションに対する考え方、ベネフィット交渉や問題調停、採用時の面接トレーニング。また、退職勧告やセクハラ対策、雇用法に関するアドバイスなど、ブリッジ・トゥ・ジャパンが取り扱う業務は、多岐に渡る。ひとつ間違えば訴訟問題へと繋がる米国で、米国人視点での「クロスカルチャーラル・トレーニング」が求められている。

ジョン・ジャクバウスキーさんが重視するのは、「カスタマイズド・アプローチ」。ヒアリングに十分な時間を費やす、クライアントのニーズを徹底的に読み解く。『やるからには、ベストを尽くしなさい』との両親の教えもあり、コンサルティング時には、相談された問題の陰に隠れた要素にも目を光らせる。「表面上は似た問題に見えても、根本的解決には、一歩踏み込んだ対応が必要です。リスクテイカーなのかもしそれませんね」と。このアプローチにより、日米各企業に横たわる溝に、次々と「橋」をかけていく。

日本から赴任した管理職と米国人スタッフ。文化的な相違が引き起こす軋轢や問題も少なくない。「米国人従業員と気持ちよく仕事がしたい」。そんな日本人管理職の悩み解決を目

指し、ジョン・ジャクバウスキーさんは全米各地を飛び回っている。父親の仕事の都合で、幼少期を様々な国で過ごした。平均3年という短いスパンでの移動のため、異文化で暮らす感覚を自

然と身に付けた。中でも日本の美しい文化や日本人の実直さには心を奪われ、早稲田大学にも留学した。大好きな日本のために自分ができることは何だろう。JETプログラムや長野オ

リンピックのサポートにも携わり、辿り着いた答えが、「日本と米国の架け橋になること」だつた。

米国人従業員のワーク・ライフ・バランスやジョブディスクリプションに対する考え方、ベネフィット交渉や問題調停、採用時の面接トレーニング。また、退職勧告やセクハラ対策、雇用法に関するアドバイスなど、ブリッジ・トゥ・ジャパンが取り扱う業務は、多岐に渡る。ひとつ間違えば訴訟問題へと繋がる米国で、米国人視点での「クロスカルチャーラル・トレーニング」が求められている。

# 日本の文化的違いに『橋』を日本のために何ができるか